



1月23日(月)
2017年(平成29年)

発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号
〒530-8251 電話(06)6345-1551
毎日新聞大阪本社

資産や投資に
100g **インゴット**
販売・買取
手数料 **0円**

ゴールド
プラチナ
インゴット

日本マテリアル

ニュースの扉

近藤流健康川柳 2017.1.23
そろそろと詣での願い忘れだし
兵庫・丹波市 矢持靖弘

退位きょう論点整理公表
おんなのしんぶん 16.17 2

全日本卓球平野が最年少V 22

和歌山で工場火災 570人避難 29

スポーツ22・23 棋・将棋11
くらしナビ13・15・18 社説5
歌壇・俳壇21 みんなの広場5
小説15 読んであげて27

トランプ米大統領 首脳会談 最初は英国

27日 貿易協定協議か

【ワシントン西田進一朗、ロンドン矢野純一】スパイサー米大統領報道官は21日、トランプ大統領がワシントンで27日に英国のメイ首相と会談することを明らかにした。またトランプ氏は21日、カナダのトルドー首相、メキシコのペニャエト大統領とそれぞれ電話で協議。トランプ外交の滑り出しは、「特別な関係」にある英国や、隣国であるカナダ、メキシコとの関係強化という米国の伝統に沿ったものである一方、トランプ氏が最優先課題として貿易、移民問題に焦点をあてる姿勢も鮮明にした。

(3面にクローズアップ、9面に関連記事)

世界各地でデモ

スパイサー氏は21日、「最初の海外の首脳としてメイ首相を歓迎する」と語った。米英首脳会談では、欧州連合(EU)から離脱した英国との貿易協定などについて協議するとみられる。英国と、トランプ政権になった

トランプ氏は、英国のEU離脱を「素晴らしいことだ」と称賛。環太平洋パートナーシップ協定(TPP)のような多国間の自由貿易協定を批判し、2国間での貿易協定を目指す考えを示してきた。一方、メイ氏も17日のEU離脱の基本方針を示した演説で、「EUを通じ各国と貿易協定を結ぶという制約がなくなる」と、世界最大の経済大国の米国との包括的な貿易協定の締結に意欲を表明した。

また、トランプ政権は北米自由貿易協定(NAFTA)について、カナダとメキシコに再交渉を要求し、

日米関係「悪くなる」

内閣支持率4ポイント悪くなる

毎日新聞は21、22両日、全国世論調査を実施した。米国内閣でドナルド・トランプ新大統領が就任したことを受け、今後の日米関係について尋ねたところ、「今より悪くなる」との回答が56%を占めた。「変わらない」は29%、「今より良くなる」は15%だった。米大統領選後の昨年12月の前回調査では「変わらない」が45%で最

稀勢の里 横綱昇進へ



稀勢の里(手前)が白鵬を破り、優勝に花を添えた。東京・両国国技館で22日、竹内紀臣撮影

異例の優勝1回で

	3場所前	2場所前	直前	計	昇進年
千代の富士	11-4	13-2	14-1②	38-7	1981年
隆の里	12-3	13-2	14-1②	39-6	83年
双羽黒	10-5	12-3	14-1〇	36-9	86年
北勝海	11-4	12-3②	13-2	36-9	87年
大乃国	15-0①	12-3	13-2	40-5	87年
旭富士	8-7	14-1②	14-1③	36-9	90年
曙	9-6	14-1②	13-2③	36-9	93年
貴乃花	11-4	15-0⑥	15-0⑦	41-4	95年
若乃花	10-5	14-1④	12-3⑤	36-9	98年
武蔵丸	8-7	13-2④	13-2⑤	34-11	99年
朝青龍	10-5	14-1①	14-1②	38-7	2003年
白鵬	10-5	13-2②	15-0③	38-7	07年
日馬富士	8-7	15-0③	15-0④	38-7	12年
鶴竜	9-6	14-1〇	14-1①	37-8	14年
稀勢の里	10-5	12-3	14-1①	36-9	

近年の横綱昇進前3場所の成績 ※丸囲み数字は優勝回数、〇は優勝同点

大相撲初場所千秋楽の22日、結びの一番で横綱・白鵬を破り、14勝目を挙げて初優勝に花を添えた東大関・稀勢の里(30)は本名・萩原寛、茨城県出身、田子浦部屋の横綱昇進が確実になった。日本相撲協会審判部からの要請で、八角理事長(元横綱・北勝海)は稀勢の里の横綱昇進を協議する理事会を開くことを決めた。23日の横綱審議委

日本出身 19年ぶり

京都市上京区
通丸太町上ル
75(241)2152
jp
-0021 宇治市
元78の5南郷ビ
0774(21)2080
ni.co.jp

舞鶴支局

〒624-0854 舞鶴市

円満寺100の9

TEL0773(76)4000 FAX0773(76)5240

maiduru@mainichi.co.jp

【広告問い合わせ】

075(213)3461

【購読問い合わせ】

0120-468012

【掲載写真の購入】

06(6346)8355

＝平日10～18時

星の占い マーク矢崎 23日

★牡羊座(3・21～4・19) 友達との会話に得する情報あり。流行の話が幸運の鍵。
 ★牡牛座(4・20～5・20) 気が弱くなりそう。自信を持って積極的に行動すること。
 ★双子座(5・21～6・21) 友人が気になるとき。相手に連絡をして幸運あり。
 ★蟹座(6・22～7・22) 継続は力なり。長く続けた事に何か幸運が宿りそう。

★獅子座(7・23～8・22) 好奇心で集中力アップ。何かに熱中して幸運を招く。
 ★乙女座(8・23～9・22) 思惑外れ多し。慣れた事ほど裏目に出るので注意して。
 ★天秤座(9・23～10・23) 仲直りや復縁のチャンス。素直さが幸運の鍵になりそう。
 ★蠍座(10・24～11・22) 融通に欠けるとき。ワガママからのトラブルに注意。

★射手座(11・23～12・21) 身体を動かして幸運あり。新しいやり方を試して吉。
 ★山羊座(12・22～1・19) うせ物が多そう。外出時は持ち物を忘れぬように注意。
 ★水瓶座(1・20～2・18) 集中力に恵まれそう。勢いに乗って大仕事ができます。
 ★魚座(2・19～3・20) 何かに熱中しそう。集中力を発揮して運が開けます。

5代目の西堀耕太郎さん。和傘の技術を応用した和風照明を提案した



京に生きる 技と人

京和傘 日吉屋 申

「京和傘 日吉屋」(京都市上京区)は江戸時代後期に創業し、約160年になる。西堀耕太郎さん(42)が5代目を継いだのは2004年。その前は、出身地である和歌山県新宮市の職員だった。公務員から和傘職人へ……。はた目からは大胆と思える転身を決めた直接のきっかけは日吉屋の次女との結婚だが、それ以前から伏線として、日本文化への関心が醸成されてきたようだ。地元の高校を卒業後、青少年の国際理解を進めるワーキングホリデー制度を利用して、カナダ・トロントへ。南米、欧州、中東などさまざまな国から来ていた若者は自国についてよく語るのに、「日本は?」と聞かれるたび、「日本のこと、日本文化の

魅力と限界 5代目の葛藤

ことを知らない「自分に気づいた。1年間のワーキングホリデーを終えて帰国。渡欧したり、再びカナダに行ったりした後、「英語が堪能」という条件付きの採用に合格して新宮市職員となり、国際交流や観光などの事業に当たった。

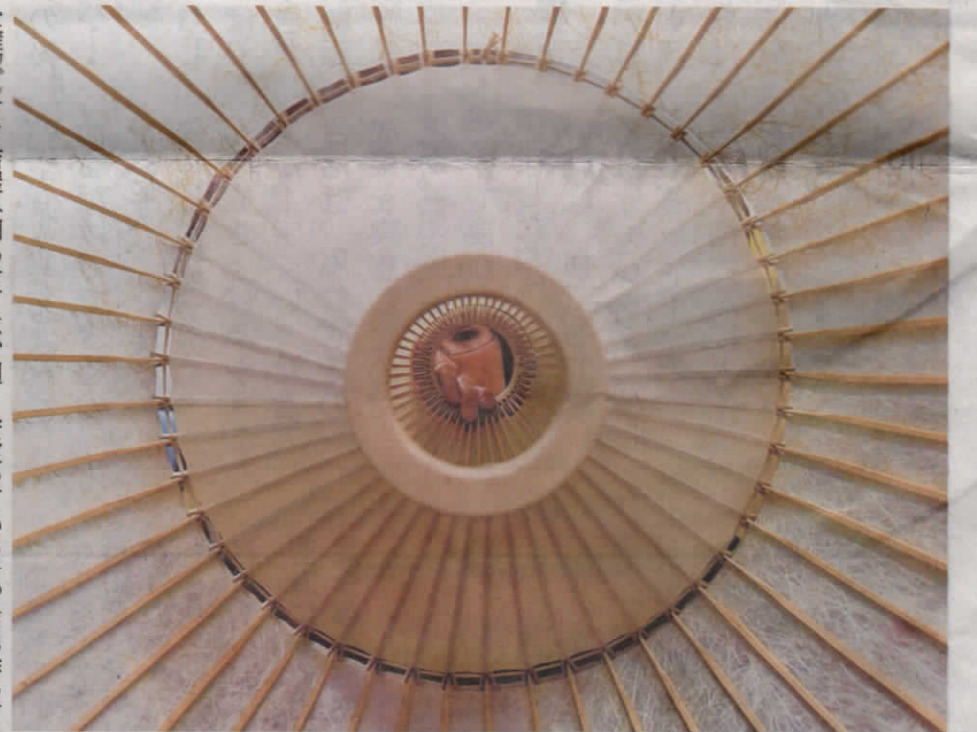
その傍ら、後の妻と知り合い、縁ができて日吉屋の和傘に触れる。「本物の伝統工芸。手作りに感動し、番傘が深く、格好良く見えた。身近すぎると気づかないが、そんな和傘を代々作り続けているのはすごいこと。外国での経験で日本の良さが分かったから、そう感じたのだと思う。外からの視線は大事」と振り返る。

しかし、雨をしのぐ普段使いは洋傘に席巻されて久しい。和傘といえど、伝統工芸の小道具や、茶道家元の野だて用などにとどまる状態。「特定の需要を細々と作るだけで、洋傘を仕入れて売っていったらいい。子どもも姉妹2人。廃業しようかと言っていた」のが、この頃の日吉屋だった。

西堀さん夫妻は20代前半で結婚。妻は和歌山に来て、新宮市に隣接する熊野川町(当時、現在は新宮市)職員として働き始めた。その90年代後半には、パソコンとインターネットが徐々に普及していく。新宮市は観光事業に力を入れようと、西堀さんは担当課に所属していた。「新宮を知ってもらいたくてもお金はない。費用をかけずに宣伝できないか」。そんな課題を抱えている時、市役所の勉強会でネットの利便性を実感する。

ついでに浮かんだのが、「ホームページ(HP)で和傘の良さを知ってもらおうことができないか」。たまたま、大学生だった西堀さんの弟がHP作成を勉強していて、頼めたのも幸いだった。開設してしばらくすると、「番傘一本」の注文が入った。東京の人から。「好きな人、興味のある人はいる。ネットに出せば、そういう人たちはコンタクトを取ってくる」。初めて売れた時の感慨を西堀さんは覚えている。

とはいえ、当時の日吉屋にパソコンを扱える人はいない。新宮で注文



ロクロと竹の骨で組み、和紙を貼って作る和風照明
＝いずれも京都市上京区の「京和傘 日吉屋」で、小松雄介撮影

を確認して日吉屋へ知らせると、週末になると夫妻で京都へ。できた傘の発送などを手伝い始めた。そうしているうち、西堀さんは先代の義母に作業を見せてもらったり、作り方を教わったり。和傘の魅力を感じていたのだから、それは自然の流れだったのかも知れない。

仕事を終えた金曜夜に新宮を車で出発、奈良県を北上し、京都までは約4時間。土日を日吉屋で過ごし、また4時間かけて新宮へ戻る。「車が好きだったし、当時は苦ではなかったと笑う。そうこうしているうちに、材料を新宮に持ち帰るようになり、「和傘作りにのめり込んでいった」。

模型好きの父の影響で、西堀さんも子どもの頃、プラモデルに熱中した。「もともと手で何かを作るのは好きだったので」と、難しいのだが和傘の細かい作業にも抵抗感はなかった。気持ちよとも求められる器用さ」のハードルを越え、「ネット」で注文も増えていたし、作るのも面白かった。ついに後を継ぎたいと申し出た。

周りの人は皆反対する。「売れないからやめておけ」「公務員の方が

安定している」。自ら作っている先代にも同じように言われたという。でも、現実にはネットで売れていくし、和傘を求めて日吉屋を訪ねてくる人も増えていた。さばききれなくなった日吉屋からの「SOS」。「ネットの普及が5年早くても遅くてもやっていたらいい。タイミングが良かった」といい、和傘がある野だての風景がなくなれば「日本文化の喪失」。夫妻で公務員をやめて京都に移り、西堀さんが「日吉屋5代目」に就いたのは、29歳の時だった。

しばらくして、先代が病で急逝する。1人で和傘作りと事務をこなしていたが、注文も増えて職人を1人雇った。だが、1年ほどして「限界」を感じるようになる。「ネットなどを通じて、たまたま興味を持った人の需要があっただけ。それらの人が買って行き渡ってしまえば、リピーターはほとんどいない」

ふと考えた。「格好いいけれど便利ではない。雨傘として洋傘と勝負しても意味がないことは、歴史の淘汰が証明している」。この気づきが、日吉屋が理念に掲げる「伝統とは革新の連続である」に、そして「和風照明」に結びついてゆく。

【八重樫裕一】
この頃つづく、次回は2月6日